

グローバルクラウドERP市場の概要

- 元来のクラウドERP市場の成長を牽引する2大要因

- ①高い投資収益率(ROI)

- ②初期費用の低さ

- 2020年、COVID-19感染拡大によるリモートワークが増加。

- 従業員の生産性を向上させるニーズのさらなる高まり

- オンプレミス（内部設置型）のERPソフトのサポート期限の問題。

- 期限切れによる需要

これまでの日本企業のクラウド活用への拒否感



クラウドサービスへの精神的抵抗感が非常に根強く、保守的な選択をする傾向が強かった

・ Gartnerの調査でも、日本はクラウドサービス導入においては最低ランクの「導入抵抗国(Resisting Countries)」と評価されている。

→リモートワークで、出社せずにバックオフィス業務を行う機会が増え、クラウドサービスの利便性がさらに増大。

出典 : Cloud Adoption: Where Does Your Country Rank ? (Smarter with Gartner)

<https://www.gartner.com/smarterwithgartner/cloud-adoption-where-does-your-country-rank>

COVID-19がクラウドERP市場に与える影響

(1) 世界共通の傾向



- 世界中どこでも再現可能で、災害に強いシステムの構築の必然性が生じた。
- 移動の制限により、プロジェクトの遅延の可能性を防がなければならない
(海外では、欧州を中心に強制力を伴う移動制限が実施されている地域も多い)

→ロックダウンによるモバイルワーカーの増加により、世界中の業種で労働場所に左右されにくく、かつセキュリティ面に強いクラウドERPサービスの需要が高まっている。

出典 : Kenneth Research

<https://www.kennethresearch.com/sample-request-10159152>

COVID-19がクラウドERP市場に与える影響

(2) 国内市場



2021年はクラウドがオンプレミスを上回り、63.5%になると予想されている。

- 2020年のERPパッケージ市場は1,241億6,000万円、前年比3.6%増とプラス成長を維持する見通しである。
- 2021年は好調だった2020年からは2.7%減とややマイナスが予想されるものの、コロナ後の「ニューノーマル」に備え、ERPをリプレイスしたりする企業も多く、リーマンショック後のような大幅な市場の落ち込みには至らないと予想されている。

(出典：矢野経済研究所)

https://www.yano.co.jp/press-release/show/press_id/2508

ロックダウンにおけるクラウドERPの利点



リモートワークとの親和性が高い！

- ・クラウドなので、場所、デバイスを問わずアクセスが可能。
- ・セキュリティ面も、特定のIPアドレスだけアクセス可能にしたり、ワンタイムパスワード、SMS認証など、強化の手段も豊富。
- ・ユーザーがログインのたびにメールで通知され、不審なアクセスも専門知識なく簡単に検知可能。

お客様の活用例



- お客様A
- NetSuiteのIPアドレス制限機能を利用し、会社のIPアドレスからのみ、NetSuiteを利用可能に設定。
- 社員の方は、VPNを経由し自宅から会社のネットワークにアクセス後、NetSuiteにログインして自宅からリモートワークを行う。
- NetSuiteログインの際には、そのたびに10桁の数字のワンタイムパスワードが必要。パスワードは一定期間で失効、使用は一度きり。

クラウドERPのその他のメリット



- SaaSであるため、オンプレミス型のERPのように5年ごとの更新が不要。
→常に最新バージョンを追加コストなく利用できる。
- 迅速な導入が可能。
(目安として、オンプレミス型の半分以下の時間（3-6ヶ月）で導入が可能。)
- 料金が比較的手頃で、スタートアップ、中小企業でも導入しやすい。

おわりに



- NetSuite Alliance Partnerであるコグラフでは、お使いのNetSuiteをリモートワークに最適化させるコンサルティングを数多く行っております。
- 詳しくは、弊社ホームページよりお問い合わせください。